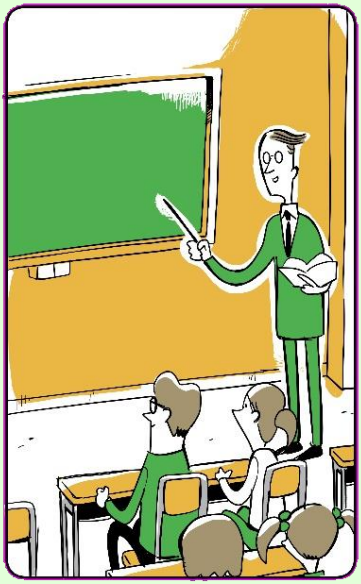
日本語版

国際ファミリーのための

日本の小学校に入学する前に

（学習編）



イラスト：森田賢吾

「日本語を話すこと」と
「日本語で勉強すること」

学ぶ楽しさを大切に

お子さんは今、どんな夢をもっていますか？

子どもたちの夢は無限大に広がっています。小学校に入って勉強が始まり、自分の得意なことや苦手なこと、そして社会の仕組みが分かってくると、思い描く夢も具体的になってきます。国際ファミリーだからこそ、日本人にはない可能性や選択肢もでてきます。たくさんのことを学んで、たくさんの知識を得ることで、夢の可能性も広がります。「分からないことが分かるようになるとうれしい」「もっと知りたい」、それが「学ぶ楽しさ」です。楽しい学びは、きっと人生を豊かにしてくれます。

☆小学１年生の学校生活

基本的に「担任の先生」（クラスを１年間担当する先生）がすべて担当します。

ある小学校の一日（例）

時間	
8:15	登校
8:35	朝の活動
8:55	朝の会
9:40	1時間目 国語
9:50	やすみ時間（トイレ・準備）
10:35	2時間目 体育
10:55	やすみ時間
11:40	3時間目 算数
11:50	やすみ時間（トイレ・準備）
12:35	4時間目 道徳
13:15	給食
13:35	掃除
14:00	昼やすみ
14:45	5時間目 学級活動
15:00	帰りの会
	下校

教科の学習

国語：日本語での「話す」「聞く」「書く」「読む」ことを通して、思考力や表現力を育てます。外国語としての日本語を教えてくれるわけではありません。

算数：数、計算、量、測定、図形、数量について勉強します。定規を使います。

生活：活動や体験を通して、社会や自然とのかかわり、自分のことについて考えます。生活に必要な習慣や技能を学びます。

図工：絵をかいたり、作品を作ったりします。ハサミやのりを使います。

音楽：歌を歌ったり、楽器を使っていろいろな曲を演奏したりします。鍵盤ハーモニカを使う学校もあります。

体育：運動場や体育館でドッヂボールやなわとびなど、いろいろな運動をします。体操服に着替えます。

道徳：社会で生きていく上で必要なルールやモラルを学びながら、「人として、よりよく生きる上で大切なものは何か」「自分はどう生きるべきか」を考えます。

教科以外の学び

給食：給食は、健康的な子どもの心と体の発達を考えて作られています。給食や、給食の準備、片づけを通して、正しい食習慣と食に関する知識を学びます。

掃除：クラスメートと協力して活動します。また、集団の一人として、自分に与えられた役割を果たす意味を実感します。

学級活動：よりよい学校生活を送るための活動を行います。学級単位で行われ、学校生活への適応を目的としています。

＜母語を育てよう！＞

子どもにとって母語は大切です。母語を育てるということは、その子の思考力や表現力を育てるということです。思考力や表現力が育っていると、日本語で勉強するときにも役立ちます。逆に言えば、思考力が育っていないと、日本語での勉強だけでなく自分で考えることや判断することが難しくなってしまいます。

では、子どもの母語（言語力）はどうやって育つでしょう？その答えは、家の中でお父さんお母さんのことばを使って、いろいろな経験をすることです。おうちの人が子どもに読み聞かせをしたり、今日あった出来事をお互いに話したりすることで、こどもの言語力が育っていきます。毎日、今日あった出来事を楽しく話しあいましょう。

Q & A

宿題って、やらなくてはいけないの？

はい。学校から出た宿題は、必ずやってください。宿題をやることで、子どもが理解していないところがわかり、授業の予習や復習にもつながります。また、宿題は、家庭での大切な勉強の時間となります。

勉強がわかりません。どうしたらいい？

まず、担任の先生に相談してください。また、語学相談員や通訳のできる知人に頼んで、学校へ一緒に聞きに行ってもいいです。しかし、子どもに通訳を頼んではいけません。大人同士が話す内容を通訳することは、子どもにとってとても難しいことです。また、子どもが正しく通訳できているかどうかは、先生も保護者もわかりません。
学校生活で困った時に、どうすればよいのか、学校に相談しておきましょう。

日本では、どうやって成績がつくの？

小学校では、テストの点数だけで、成績は決まりません。授業へ参加する態度や勉強に取り組む姿勢、宿題などの提出物を出しているかどうか、毎日の姿勢が評価されて、成績が決まります。

入学する前にひらがなの勉強はしておいた方がいい？

小学校に入ると、ひらがなを勉強します。でも、ひらがなができるようになってから教科学習が始まるわけではありません。ひらがなを勉強しながら、同時にいろいろな授業の中で、日本語で書かれた教科書を読み、日本語でノートを書いていきます。読み書きを繰り返すことで、ひらがなが使えるようになります。
ひらがなの読み書きに時間がかかると、授業の内容が理解できなくなくなることもあります。不安な人は入学する前にひらがなの読み書きの練習をしておいてもいいですね。

愛知教育大学 外国人児童生徒支援リソースルーム

〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1 Tel:0566-26-2219 Fax: 0566-26-2566

e-mail: gendaigp@auecc.aichi-edu.ac.jp

愛知教育大学 リソースルーム

このリーフレットは日本語版のほか、ポルトガル語版、スペイン語版、タガログ語版、中国語版、ベトナム語版、英語版があります。